

Wilfried Jacobs

ウィルフリッツ ヤコブス

ベルギーのロイヤルバレエスクールアントワープでバレエの教育を受ける

1995年3月よりドイツのカールスルーエ

Badishes Staatstheater (芸術監督ジェル ミナル・カサド)入団

1998年8月から2007年9月まで、日本でゲストダンサー、振付、講師として活動

2006年アメリカのジャクソンで開催されたIBCで、フィンランド国立バレエ団元芸術監督のディナ・ビヨルンよりバレエ団の入団の誘いを受ける

2009年10月プリンシパルに昇格

2013年8月より、フィンランド国立バレエ学校の校長に就任

同時にプリンシパルダンサー、ボーイズクラス担当講師として活躍。そして数多くのスクール作品を振り付け手がける

2016年12月フィンランド共和国より「フィンランド獅子勲章騎士章」授章

2017年春、HAMK (Häme University of Applied Sciences)より国際専門教師として卒業

2019年より、フィンランド国立バレエ団主催のインターナショナルサマー講習会担当

2020年9月フィンランド国立バレエ団引退

ベルギーへ拠点を移し、アーティスティックアドバイザー、コンサルタントとして活動

ダンススタジオアラベスクの指導にもあたる

ロイヤルバレエスクールアントワープ、ジュニアバレエアントワープ、フランドルバレエ団等ゲスト講師として招かれる

2021年アントワープ王立音楽院バレエ科ゲスト講師

2022年8月ベルギーリエージュ市に新しく国際バレエスクールが開校され学部長に就任



Above: Onegin (John Cranko) with Edita Raušerová
Left: Scheherazade (Kenneth Greve) with Julie Gardette
Below: Manon (Sir Kenneth MacMillan)

